

水辺の社会科見学 「東京のまちづくりを知ろう！」

実施報告書

平成 23 年度 「子どもゆめ基金」 助成事業



特定非営利活動法人 あそんで学ぶ環境と科学倶楽部

目次

1. はじめに	P3
2. 実施地域について	P3-P4
3. 水辺の社会科見学 「東京のまちづくりを知ろう！」とは	P4
4. 活動報告	P5-P6
5. 参加者によるレポートの一部を紹介	P7-P8
6. まとめ	P9

1. はじめに

東京の川は、高い護岸に囲まれ、現在危険な場所として、誰も近づかなくなってしまいました。世界的にも有名な銀座・丸の内・日比谷周辺は、かつて沢山の水路を犠牲にして作られ、それと共に、貴重な歴史的建造物が失われてしまった事実は、殆ど知られていません。



なぜ、後世に伝えなければならない、貴重な文化的資源が消失し、巨大都市東京が生まれたのか？そのプロセスを検証し、これからの東京の町づくりを担う子供たちに考えてもらうためには、実際に水路を巡りながら学んでもらう事が最良の学習プログラムだと私達は考えました。そして、二度と経済発展の裏腹に貴重な歴史的資源の消失が無いよう、未来の「東京のまちづくり」を正しい方向へ導く事が、私達大人の役割だと考え、水辺の社会科見学「東京のまちづくりを知ろう！」を実施しました。

2. プログラムを実施する地域について

東京の河川

東京の河川のほとんどが、人工的に作られた物です。言い変えると、かつては、長閑な水辺の田舎まちが、現在の東京です。その田舎まちが、どのようにして変貌し、現在のコンクリートジャングルになっていったのか？このプロセスを、歴史的な観点や街づくりの観点から学び、理解するために最適な資源が残っているのが東京の河川です。特に、史跡や歴史的建造物、失われてしまった水辺、コンクリート護岸、川の上空に作られた高速道路など、糸口となる資源が豊富に存在するエリアが、都心部を流れる神田川・日本橋川です。

「神田川・日本橋川とは」

東京都三鷹市井の頭恩賜公園内にある井の頭池に源を発し東へ流れ、台東区、中央区と墨田区の境界にある両国橋脇で隅田川に合流する全長24.6kmの一級河川が神田川です。そして、飯田橋と水道橋の間から南側に分岐し、隅田川へと注ぎ込んでいる全長約4kmの河川が日本橋川です。その昔、隅田川の河口東側には、半島状の大きな中州があり、江戸前島と呼ばれていました。江戸前島の東には、遠浅で静かな入り江、日比谷入り江が広がっていて、そこに流れ込む川「平川」が、神田川・日本橋川のルーツとされています。徳川家康が、江戸城に入府してから、生活物資や建築資材を運ぶために、堀や運河を掘り、更に、江戸城の濠を作るために、川の流れを変えることで江戸の町が形成されました。そして、開発と共に沢山の水辺が消失し、残された水路が、現在の神田川・日本橋川となりました。



高速に覆われた日本橋



建造されて130年経つ常磐橋



江戸城の外濠として作られた石積護岸



大名家の上屋敷に荷を運ぶ荷上場跡



仙台藩伊達家が開削したお茶の水切り通し



今川焼きの発祥の地であった竜閑川

3. 水辺の社会科見学「東京のまちづくりを知ろう！」とは

都市部の便利な生活に慣れてしまっている子供達に、かつて長閑な水辺の田舎町が、どのようにしてコンクリートジャンглの町に変貌してしまったのか？その仕組みを、川から見た視線で学び、東京のまちづくりのプロセスを歴史的背景から学びます。本プログラムは、普段近づけない東京の水辺を、ボートを使って巡り、指導者が存在する資源の歴史的な解説します。夏休みの自由研究にも間に合わせたスケジュールとし、1回10名 期間中に5回 合計50人の子供たちに実施しました。

実施スケジュール：

9:30	集合（千代田区和泉橋区民会館 2 階）
10:00	開会のあいさつ
10:00-10:10	オリエンテーション プログラム・進め方の説明
10:10-10:40	座学 1 「水の都 江戸について」 講師：三浦裕二 日本大学名誉教授
10:40-10:50	休憩
10:50-11:50	座学 2 「地域の歴史・まちづくりを川から学ぼう」 講師：兼子和彦・奥田好一（株）東京建設コンサルタント
11:50-12:50	昼食休憩
12:50-13:00	安全レクチャー
13:15-15:15	日本橋川にある宝田橋防災船着場より、ボートに乗船 神田川と日本橋川を巡る。 水辺に残っている歴史的建造物や史跡などを指導者が解説します。
15:30-16:00	まとめ・ふりかえり
15:30-15:45	閉会のあいさつ・解散

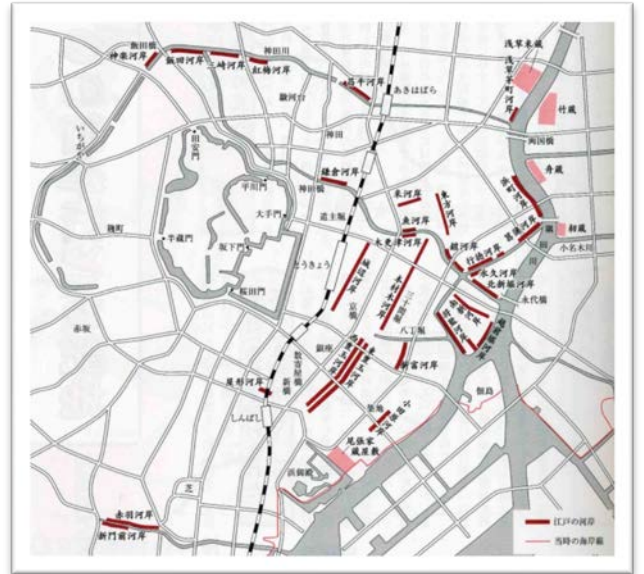
4. 活動報告

座学1 「水の都 江戸について」

講師：三浦裕二 日本大学名誉教授

座学プログラム1は、日本大学名誉教授 三浦裕二先生にお手伝いいただきました。現在の東京に存在する河川の殆どが江戸城構築や江戸時代初期に人口で作られた水路が起源になっていることを古地図など利用し解説いただきました。

参加している子供たちには、自宅や今回実施している場所を現代地図で確認し、さらに古地図で確認すると海だったりすることに驚き、とても興味深い反応であったと思います。

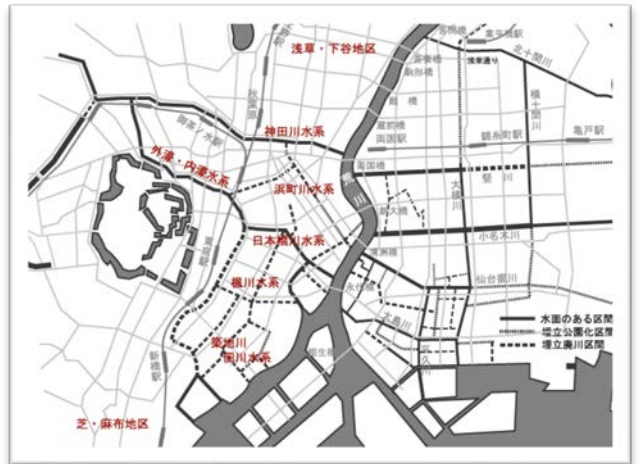


座学2 「地域の歴史・まちづくりを川から学ぼう」

講師：兼子和彦・奥田好一 (株)東京建設コンサルタント

座学プログラム2では、(株)東京建設コンサルタント 兼子・奥田氏により高度経済成長期の東京の変化、水路を活用した道路及び高速道路の建設プロセスなど解説いただきました。

参加した子供たちからは、都市部の主要幹線道路や高速道路が、江戸時代に活用されていた水路を潰し作られていることや、



その建設によって壊されてしまった江戸城の一部など現代的な文明生活を手に入れていくうえでどれだけの犠牲を払ったかを知る良い機会になったと思います。

※ 尚、日本大学名誉教授 三浦裕二先生は、以前から当法人の活動にご支援いただいております。江戸時代の水路と人々がどのように関わっていたかを会員向けなどにレクチャーしていただいている関係上、当法人の団体構成員とみなし、本活動に対しては、無報酬での講義協力をいただきました。今回このようなご配慮をいただき大変感謝しております。改めて御礼申し上げます。

※ 当初予定していた8/18・19が荒天との予報で、安全性の配慮から急きょ3日前に参加者の方に通達、第1回を22日、第2回を26日に変更しました。結果的には、18日は晴天となりましたが、すでに連絡済だったためそのまま翌週に実施しました。



実施の模様



オリエンテーション



座学



座学



ボートによる調査活動



ボートによる調査活動



ボートによる調査活動



ボートによる調査活動



ボートによる調査活動



ボートによる調査活動



資料作成作業



資料作成作業



発表

参加者数

実施日	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	計
子ども	5組 7人 (小学生 4-6年)	4組 6人 (小学生 5年-中学生 1年)	5組 7人 (小学生 4年-5年)	7組 7人 (小学生 5年-中学 1年)	5組 7人 (小学生 6年-中学 2年)	26組 34名
保護者	5名	4名	4名	7名	4名	24名

参加費の徴収は、すべて子供のみ。保護者は、無料となっています。

5. 参加者によるレポート

まとめ

昔の川の使われ方は、どうでしたか？

物を運んだ、川からの交通手段だった。
ほとんどの物も、用水路としても使われていた。

現在の川の使われ方はどうでしたか？

つたが、くを、する、場所。
、さん、たり、する。
、の、うん、は、水。
、馬、の、し、も、か、を、れ、し、う、化、して、は、

私達の家と川との関係はどのようになっていますか？

、の、水、を、拾、て、る。
、き、ち、ょう、な、食、水。
、の、の、り、が、た、さ、と、た、れ、て、る。

昔の川の使われ方は、どうでしたか？

・物の運搬
・水の確保
・城を守る

現在の川の使われ方はどうでしたか？

・観光
・圧力をせしめるためにする
・土間の水を流す
・ごみの運搬

私達の家と川との関係はどのようになっていますか？

・下水を下水処理場できれいにして流す。
・雨水をある程度ため、みどり水を、う、め、の、に、川、の、場、と、る。

まとめ

昔の川の使われ方は、どうでしたか？

今の川は昔道としてつかわれていました。

現在の川の使われ方はどうでしたか？

昔とちがって、道としてつかわれていなかった。
そのかわり、ふねが、お、て、いた。
、み、を、は、こ、る、た、め、の、道、と、して、つか、わ、れ、て、いた。

私達の家と川との関係はどのようになっていますか？

前はくさくて、だれもこなかったけど、今はくさくなくなったから、ごはんをたがるところが、て、た。

まとめ

昔の川の使われ方は、どうでしたか？

河岸を埋め、魚などを陸にあげていた。
また、河岸にたいた木を、た、いた、た、め、に、川、が、は、ご、れ、始、め、た。
荷物を運ぶためにつかっていた。
ほとんども使っていた。

現在の川の使われ方はどうでしたか？

ごみ運搬のため使っている。
土間に柱をたて、

私達の家と川との関係はどのようになっていますか？

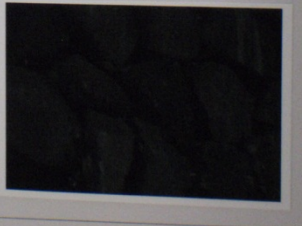
家で水を節約すれば、川で遊べるようになる。

現在の川の形を見てみよう!

場所: 一ツばし 水車 特徴: みじしいるなな となり大きなあな がある	
場所: 一ツばしの近くの石だ 特徴: マユクがいろいろか いてある おぼりの石	
場所: おちの永はし 特徴: 赤い色 水道は昔水 をとおしていた。	

場所: きじばしのとなり 特徴: せまいあながある 一かすしせまい	
場所: ごみ。 特徴: くらいろ、ね ごみしょうせん	
場所: あいあいはし 特徴: あいがえでん のあいをとって あいあいはし	

場所: 水道橋第2ばん 特徴: 水車 トンネルのような場所。 においがこもっている。 トンネルの左には、まるでスロ をかくす様に草がか いしげう。	
場所: ごみ中斷所 特徴: 家庭のゴミを集めている 場所。	
場所: EM 活性液製造工場 特徴: だんごは、ザラザラしていて、 見た目は、ホコリがかがた るみにいたった。	

場所: EM 活性液製造 アライ 特徴: せんきんなどを集めた タコ 中ものぞいてみると黒。 においは、甘いにおい。	
場所: きじばし 近く 特徴: 橋のたもとに残る。	
場所: 八つばし 近く 特徴: 石によっては 田んぼのよう がある 江戸時代からのもの。	

6. まとめ

平成 23 年度 子どもゆめ基金助成事業 水辺の社会科見学「東京のまちづくりを知ろう!」は、夏休み中の子供たちに、東京の川や海を実施に巡りながら、まちがどのように作られ、どのように発展していったのか、そのプロセスを良く理解してもらい、これからの東京の町づくりを担う子供たちに考えてもらうために企画しました。東京に長年住んでいる大人でも、東京のまちづくりを歴史的背景から知る機会は少なく、また、実際にフィールドへ出向いて行うためには、船舶を使わなければならないなど、さまざまな障害(許可・費用・人材)があり実現するにはかなりハードルの高い企画でありました。ですが、平成 23 年度 子どもゆめ基金助成事業に採択され実現できたことは、本当に素晴らしい事であると思います。ちょうど夏休みの自由研究の題材として利用できる時期でもあり、参加した子供たちの反応は、私達が期待した以上となりました。

今年度は、東日本大震災の影響から、水辺での活動は厳しいものがありましたが、安全面での配慮、関わるスタッフの安全に対する意識のおかげで、事故などもなく実施出来た事、本当によかったと思います。

最後に、このイベントにご協力いただいたすべての方々に、スタッフ一同より御礼申し上げます。